

No	日付	資料	ページ等	コメント内容	コメント対応	回答日	完了
1	6月1日	概要説明資料	17	3号炉の第9回定検で実施したバップルフォーマボルトの超音波探傷検査について、具体的な方法、目的、適用規格等について説明すること。	審査会合資料案に追加した。	9月15日	9月15日
2	7月24日	補足説明資料	8	評価手法③の内容ではIASSの発生を確認するまでのフローであるため、残っているボルトの本数の評価等、健全性を評価している旨を記載を見直すこと。	補足説明資料 本文P8に追記した。	9月15日	9月15日
3	7月24日	補足説明資料	12	マスキング箇所 (MOX燃料を用いることに伴い保守的に設定したとする数値) について、他事象の補足説明資料では公開となっているが、マスキングが必要か確認すること。	確認の結果、マスキングは不要である。補足説明資料の該当箇所からマスキングを外す。	9月15日	9月15日
4	7月24日	補足説明資料	12	バップルフォーマボルトの評価において、MOX燃料装荷後以降の中性子束を1.2倍して評価したとしているが、当該評価の妥当性を説明すること。また、別紙2の炉内構造物の中性子照射量の計算におけるMOX燃料の考慮についても併せて説明すること。	【9/27、10/18回答】 補足説明資料 別紙2のP2-4に追記した。 【10/18ヒアリングコメントによる適正化】 補足説明資料 別紙2のP2-4に1.2倍の根拠を追記した。	9月27日 10月18日	
5	7月24日	補足説明資料	7	表3の炉心槽における海外事象が「無」となっているが、海外での損傷事例として炉心槽溶接部に割れが生じていることが報告されていることを3, 4号炉の知見収集の対象に含めているかどうかを説明すること。損傷事例に対し、高浜3, 4号炉に当てはめるとどのように考えられるのかを説明すること。	回答資料 高浜3, 4号炉-IASCC-5のとおり。	9月15日	9月15日
6	9月27日	審査会合資料	5, 7	炉心槽の海外損傷事象が「無」となっているが、米国ロビンソン発電所での損傷事象について説明をすること。	審査会合資料のP5, P7に追記した。 また、補足説明資料のP7に追記した。	10月18日	10月18日
7	10月18日	審査会合資料	18	UT検査の垂直法 (一深法) の説明と図は整合しているか。	一深法は探触子から発信したエコーを同じ探触子で受信する方法であり、審査会合資料の図は一深法を示したものである。(矢印はエコーを示しており、探触子から出たエコーは同じ探触子に戻っている。) なお、バップルフォーマボルトの頭部がすり割り形状のため、探触子を2個両側 (図では上下に2つ) に設置している。		
8	10月18日	審査会合資料	18	底面エコーがB1とB1' の二つあるのはなぜか。	B1とB1' はいずれも底面エコーを示している。 B1' はボルト側面で反射したのち底面で反射したエコーを受信したものである。側面で反射した際にモード変換 (縦波、横波) が生じるため、遅れエコーとして受信している。		
9	10月18日	審査会合資料	13	第9回定検でのUT検査本数が全数の半分であることを記載すること。	審査会合資料のP13に追記した。		
10	10月18日	審査会合資料	12	割れ発生応力線図の出席を記載すること。	審査会合資料のP12に追記した。		
11	10月18日	審査会合資料	15, 16	実機条件の温度の表記について、「約」をつけるなど適切な表現に見直すこと。	審査会合資料の実機温度記載箇所 (P5~P8, P15, P16) に約を記載した。 また、補足説明資料のP7の表3についても約を記載した。		